



左/ダイニングから見たリビング。ベランダは夏にパーベキューができる広さで、水道も完備。長火鉢は趣味の釣り竿づくりに使うとか。上/ステンレスのキッチンが木の空間と不思議にマッチしています。右/特注のシンク。収納棚にはたぐさんのお皿が入っています。



8

住宅の知識はそれほどなかったという山川さんは、家の建替えをするにあたり、さまざまな住宅雑誌や、毎週放送している住宅訪問番組を毎回録画したりと、家についての知識を深めていきました。構造のことや住宅建材のこと、塗料やガラス、土地の地盤や建築基準法にいたるまで、かなり専門的なことまで研究した様子。「もともとエンジニアリング系の話が好きだったからね。」とは言いますが、話を伺っている間にもしっかりファイリングされた資料がたくさん出てきて…いやいや、なかなかの凝りようです。最初の設計段階では、山川さん自身は多摩産材の名前は知っていたけれど、それを使うというのは特に念頭になく、集成材でつくことを考えていました。しかし、見積りが予想より高く、なぜかと聞くと多摩産の天然木を使用した見積りとのこと。工務店の方にその理由と説明を聞き、ご自身、設計士にもこの家にはどんどん実験的な要素を取り入れてくれと言っていただいていたこともあり、「じゃあ、多摩産材を使ってみよう」ということになりました。床材についても、知り合いのインテリアコーディネーターに相談したところ、「スギの床は傷さえ気にならなければいい。」と言われ、ご自身もその傷もまた味わいになると考え、「やるなら素材感を前面に出した形で統一する」ということになり、スギの床材を敷き、柱や梁、胴差等の構造材を壁で隠さずできるだけ出すように設計

士にお願いしたそうです。結果、「集成材を使わず大正解だった。」と山川さんは語ります。「こういう柱や梁を見ると、やっぱり集成材には絶対ない風合い。節の感じとか。もちろん木はだんだん割れてくるけど、それがふたつとない味わいでしょ。床のスギも、家に来た人は大体『なんかふわふわしていいねえ』なんていうよ。」と客人にも好評です。また、家の建設に取りかかっただけからは、現場にほぼ毎日通ったそうで、「りっぱな構造材が現場に運び込まれた時はひそかに感動した。」といいます。

右/ロフトにはワイヤーで囲いがしてあります。山川さんが取付けた。等間隔に3本張られたワイヤーを格闘技のリングロープに見立ててお子さんが大はしゃぎだそう。下/中には浮いているようなつくりのロフトには支えになる柱や梁があらわし(10ページ参照)で使用されています。



山川さんの家づくりへのこだわりは、シンクや洗面台等の水回りにも垣間見えます。工務店からも「買いたいものはどんどん自分で買ってください。」と言われたそうで、水栓やトイレ等はほとんどインターネットで購入。どれをとっても、「これは6万くらいのが、ネットで2万ちょつと」とか、「これはホームセンターを駆け回って買った」というエピソードが出てきます。キッチンに関してはご自身、料理をすることが趣味ということで、より一層のこだわりよう。シンクやガス台は業務メーカーの物を注文し、シンクに至っては自分で図面を引いた特注品です。食洗機やガスオープン等、まるで抜け目がありません。それ

でもシステムキッチンを買うよりは安上がりだったと言います。「ほんとに手間さえ惜しまなければいくらでも安くできますよ。」それでいて安っぽく見えないのは、やはり頭の中に出てきたときの家のイメージが思い描けていたからでしょう。「これ、キッチンのレイアウトはこれでいいのかと見るために作ったんだけどね。」とっておもむろに差し出されたのは、この家の1/50サイズの模型。驚いたのはこの模型、山川さんが模型屋さんで材料を買ってきて自分でつくったということ。「これ使って、窓の穴から部屋の中がどう見えるんだ〜?とかさ、やるのよ。」と、とても楽しそうです。特にこだわったのは、玄関を入った時に見える視界で、実際この模型で階段の見え方をみて、階段手前にある靴箱の高さを調節したりしました。そうすると設計士さんもその意気込みに刺激され、こうしたらどうか?という案をだしてくるんだそう。

お話を聞いていると、終始順調な家づくりだったように思えますが、途中、建築基準法の改正があり、そのために設計図が変わったこともありましたが、それを話す山川さんには、そんなことも楽しんでいるような感覚があります。「どうせ建てるなら楽しまなきゃ」ということが、決して気負いではなく自然にできているんだなと感じました。「こういう素材感のある家にしたのは、年月が流れても自分で直せて、永遠に完成しない家というのが良かった。」だからこそシンプルな構造で、部屋全面が木、という造りなのですね。今は家づくりという遊びが終わって、釣り竿づくりに熱中しているそう。なんだか、年を経て変化する木の風合いとこれから楽しく付き合っていく山川さんの姿が目に見えるようです。

文/高橋亨子



上/業務用のガス台は火力十分!この下にはガスオープンも。ピザもすぐにカリッと焼けちゃいます。中/バスstub、シャワー、ライト、洗面台、全て自分で調達しました。外国のホテルのようじゃないですか?下/これがお手製1/50サイズ山川邸。窓からカメラのレンズを入れて写真を撮ったの新居疑似体験はすっごく楽しそう。

9



北区山川邸 外観
2008年10月完成
設計 小林将夫
<http://homepage2.nifty.com/NEXUS/>
施工 眞橋工務店
TEL 042-755-6005

